

令和元年度 東京情報大学総合情報研究所プロジェクト研究
研究実績報告書

1. 研究課題名

「佐原三菱館」の歴史に関する調査 ～「佐原三菱館」が示唆する、戦時下で実施された三菱銀行と第百銀行の吸収合併における背景と経緯に関する論考整理～

2. 研究組織

区分	氏名	所属・職名
研究代表者	堂下 浩	総合情報学部 総合情報学科・教授
研究分担者	井関 文一	総合情報学部 総合情報学科・教授
	長谷川 純平	大学院総合情報学研究科・博士前期課程 1 年

3. 連携先団体等

団体名	担当部署
香取市役所	生活経済部市民協働課
香取市役所	総務企画部企画政策課

4. 研究期間

2018 年度～2020 年度（3 年計画の 2 年目）

5. 研究の目的

千葉県香取市にある歴史的建造物である佐原三菱館は 1914（大正 3）年に旧川崎銀行佐原支店として建てられた。川崎銀行が建設した建物は佐原三菱館に限らず、明治村にある本店の一部、そして現在の佐倉市立美術館（旧川崎銀行佐倉支店）など歴史的建造物として大切に保存されている。そこで今回、「謎の銀行」と称される川崎銀行の特質を理解するために、川崎銀行が建築した建物群の側面から川崎銀行の実像を調べる。

6. 研究報告

昨年度は「佐原三菱館が語る銀行統制の時代～香取で隆盛を誇った旧川崎銀行を辿る～」というテーマで、佐原三菱館を建築した川崎銀行について金融史の専門家などを招き、その歴史を紐解いた。そして昨年度の調査研究を基礎として、今年度は川崎銀行の特質を残された建造物から理解するアプローチで調査を進めた。その結果、川崎銀行の本支店には戦前期の銀行の中でも際立って 3 つの特徴を有していたことが判明した。それら特徴とは、1) 堅牢な建物である、2) 優美な建物である、そして 3) 立地する景観との一体性が保たれた建物である、といった点である。

実際、千葉県香取市の佐原にある歴史的建造物である佐原三菱館は 1914（大正 3）年に旧川崎銀行佐原支店として建てられた千葉県の有形文化財に指定される建物である。屋根は木骨・銅版葺で覆われ、街並みとの融和性の高い特徴的なレンガを使用した外壁で囲まれ、そして一部にドーム形式を用いた荘厳な明治洋風建築である。川崎銀行が建設した建物は佐原三菱館に限らず、現在の佐倉市立美術館のエントランス部分（旧川崎銀行佐倉支店）や、旧川崎貯蓄銀行富沢町支店の建物は現在もハリオグラス本社ビルとして利用されている。

そこで今年度における「地域連携フォーラム 2020」のテーマを「佐原三菱館を知る ～川崎銀行が遺した建造物を辿る～」として以下の通り開催した。

《開催概要》

- ①主催 東京情報大学及び香取市
- ②日時 令和 2 年 2 月 19 日（水）14：00～16：00
- ③場所 香取市佐原中央公民館 大会議室
- ④内容

第一部：講演

< 演者 > 本橋浩介（佐倉市立美術館・学芸員）

< 演題 > 川崎銀行が遺した建築物 ～建築家・矢部又吉の事例を中心に～

第二部：パネルディスカッション

< 演題 > 川崎銀行の建造物群から見えてくる佐原三菱館の魅力と価値

< パネリスト > 本橋浩介（佐倉市立美術館・学芸員）、川崎善保（川崎定徳株式会社・監査役）、坂本行広（香取市 教育部生涯学習課 文化財班・副主幹）、辻本真理（HARIO 株式会社 企画広報本部・本部長）

< 司会 > 堂下浩（東京情報大学・教授）

上記フォーラムの参加人数は 100 名を超えた。本フォーラムでは、先ず佐倉市立美術館の学芸員である本橋浩介氏から「川崎銀行が遺した建築物」と題した講演会を実施した。その後、パネルディスカッションとして、本学総合情報学部の堂下浩・教授が司会進行の上で、パネリストとして本橋浩介（佐倉市立美術館・学芸員）、川崎善保（川崎定徳（株）・監査役）、辻本真理（HARIO 株式会社・企画広報本部長）、そして坂本行広（香取市教育部生涯学習課・副主幹）を招き、「川崎銀行の建造物群から見えてくる佐原三菱館の魅力と価値」と題して議論を行った。

パネルディスカッションに続く質疑応答では、市民から多数の佐原三菱館に纏わる貴重な逸話が証言されただけでなく、その保存方法について提案など出された。今回のフォーラムを通して佐原三菱館が香取市民にとって貴重な建造物であることが再認識された。

7. 成果の公表

開催されたパネルディスカッションは、新規性や学術的価値が高い内容であった。このため、当日の内容を整理した上で、その要旨を整理したパネルを作成した上で、香取市の関連庁舎や本学の学園祭並びにオープンキャンパス等で公表したい。

8. 総評

香取市

東京情報大学と香取市は、平成 24 年に地域連携協定を締結し、大学には香取市を教育・研究活動のフィールドとして活用いただいております、市では市民協働のまちづくりを推進するため、お互いが協力・連携してさまざまな活動に取り組んできました。

昨年度、東京情報大学総合情報学部 堂下 浩教授と「プロジェクト香取」の参加学生の研究成果として、佐原中心市街地のシンボルである佐原三菱館を取り上げ、「佐原三菱館が語る銀行統制の時代～香取で隆盛を誇った旧川崎銀行を辿る～」と題して、講演及びパネルディスカッションを開催しました。

今年度は、川崎銀行が建築した建物群を紹介しながら、「佐原三菱館を知る～川崎銀行が遺した建造物を辿る～」と題して、佐倉市立美術館 学芸員 本橋 浩介氏からの講演及び堂下浩教授によるパネルディスカッションを行い、大盛況の中、フォーラムを終了することができました。

現在、香取市では千葉県有形文化財に指定され、歴史的な建造物である「佐原三菱館」の保存修理工事に取り組んでおり、今回のフォーラムを通じて「佐原三菱館」が地域のシンボルとして、香取市民にいつそう愛着を深めていただく機会となりました。

今回のフォーラムを開催するにあたり、ご尽力いただいた東京情報大学総合情報学部 堂下 浩教授、ご講演いただいた佐倉市立美術館 学芸員 本橋 浩介様、パネリストとして貴重なご意見をいただいた、川崎定徳株式会社 監査役 川崎 善保様、HARIO 株式会社 企画広報部長 辻本 真理様、香取市生涯学習課 文化財班 坂本 行広様に、深く感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

※上記講評は以下 URL にて本学ホームページで公開される（掲載日：2020 年 3 月 4 日）

URL http://www.tuis.ac.jp/topics/forum2019_1/